



2 柴田是真

《温室盆栽時絵額》

一面

明治十年（一八七七）

木製漆塗・時絵

総四一・〇×六三・〇

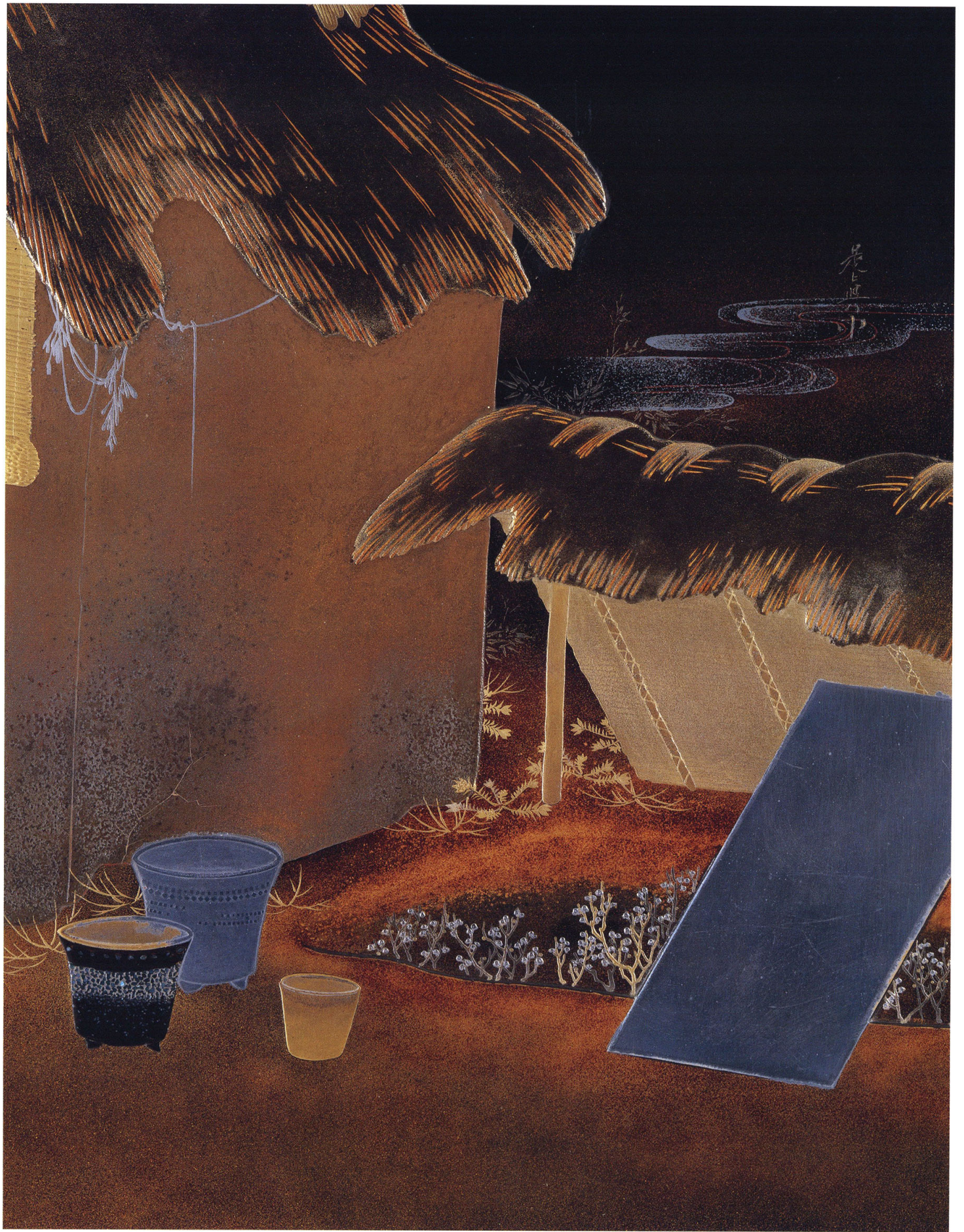
東京府 第三区第二類

龍紋賞牌

漆塗りの板に時絵で絵画的な図様を表し、漆塗りの額に収めた作品。こうした時絵額は、西洋画の体裁とその耐久性、油彩独特の画面の艶やかさ等を意識して、柴田是真（一八〇七〜九二）が内外の博覧会への出品に向けて新たに編み出した、この時期に特徴的な作品である。是真は明治六年のウィーン万博には《富士田子浦時絵額》の大作を出品、これ以降に是真と其の専門を中心に、時絵額が内外の博覧会で発表されるようになる。本作は、明治十年の第一回内国博に是真により出品された三面の時絵額のうち、宮内省の買い上げとなった一面で、同博の出品目録には「春色植木室ノ図」「盆栽陰室ノ図」等と記されるが、宮内省では明治期より《温室盆栽図額》と呼ばれていたようである。黒漆地の上に時絵で植木室が表され、室の脇の梅枝の蕾はまだ固いが、植木室の中の鉢植えの梅はすでに開花している。植木室の脇には苗木を育てる穴室があり、空の植木鉢が並べられている。時絵技法を駆使して、時絵粉にも工夫を凝らし、土壁や屋根、すだれなどそれぞれの質感を見事にとらえている。

時絵額は第一回、二回の内国博にもまとまった数が出品されて、高い評価を受けた作品も少なくなかったが、第三回以降は、伝統的な形式の書棚や硯箱などの文房具が出品の主流を占めるようになり、時絵の器物の形が復古する傾向が強まるにつれて、時絵額は姿を消していくことになる。







- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

内国勸業博覧会 ― 明治美術の幕開け

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 57

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年四月二十一日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections